

【児童発達支援】 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室あかねっこ 練馬教室		
○保護者評価実施期間	令和 6年 11月 1日	～	令和 6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和 6年 11月 1日	～	令和 6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの実態を把握し、個々にあったプログラムを作成し、取り組むべき課題を提示していること。	指導員全体会などでお子さんの実態把握につながる研修を行ったり、あかねっこ内部で行った田中ビネーの検査結果を参考にしたりすることで、丁寧にアセスメントを取っていることに加えて、指導員同士が協力し合って担当以外のお子さんについても情報共有している。	同じような課題を持ったお子さんについての指導の工夫をお互いに共有し指導に生かせるようにしていきたい。
2	指導時間内に設けている指導振り返りの時間で、家庭や園での子供の様子や困り事を把握し、療育の中に生かしていること。	必要に応じて保育園・幼稚園と連携し、情報共有を行っている。あかねっこでは1週間に1時間の指導のため、長く生活している場での様子を参考にしている。	各機関との連携をもっと計画的、継続的に行ってきたい。
3	お子さんや保護者があかねっこへの通所を楽しみにしてくれるように、職員一人ひとりが個性豊かに創意工夫をしていること。	お子さんの好きな課題を中心に据えながらも、苦手とする課題については教材や提示の仕方を工夫することで無理なくレベルアップできるようにしていること。	苦手とする課題がどこに起因するのかをもう一度見直していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練は年に2回実施しているが、保護者に周知されていないこと。	週1回の個別指導なので、年2回の避難訓練に当たらないお子さんが多いことが要因と思われる。	安全管理などの取り組みをもっと掲示して知らせていく。また、指導の中で安全に対する意識を高める内容を取り入れていく。
2	他の保育園、幼稚園、認定こども園や地域との交流を目的とした機会を設けていないこと。	個別療育を目的としているために、集团同士の交流機会がないこと。あかねっこでプレーパークへの誘いのチラシを配っているが、なかなか参加者が少ないのが実情である。	社会福祉法人ネット練馬に属しているの、そこでのつながりを利用して、地域で行われるイベント情報を紹介し、地域に溶け込む機会を増やす。
3	保護者同士が自由に話し情報を共有する機会が少ないこと。	指導時間中に保護者が知り合い話す機会はあるものの、他の曜日の保護者と知り合うチャンスが少ない。	コロナ禍を経験し、リモートで保護者会に参加できることになり便利になったものの、やはり以前のように同じ年齢のお子さんの保護者同士が集まって話す機会も考えていく。